

令和元年5月23日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02268

研究課題名(和文)住吉派の模写から見る近世御用絵師の絵画制作研究

研究課題名(英文)A study on the picture production of Goyo-eshi in early modern period from copies of old masterpieces in Sumiyoshi School

研究代表者

下原 美保 (Shimohara, Miho)

鹿児島大学・法文教育学域教育学系・教授

研究者番号：20284862

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では近世御用絵師における絵画制作のあり方を解明するため、松浦静山著『新增書目』に注目した。本研究で解明したのは以下の3点である。1点目は江戸後期の住吉派では古画の模写が蓄積されており、これらを情報源とした絵画鑑定にも定評があったこと、2点目は古画の模写は絵画制作のみならず、歴史考証学のビジュアル情報として松平定信を中心とする文人サロンで広く活用されたこと、3点目は宮廷や幕府の御用絵師の間で古画の模写は頻繁に貸借され、図像の共有がなされていたことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、松浦静山著『新增書目』に記載された住吉派や板谷派の模写に関する記事と現存する模写より、江戸時代後期における模写が、絵画学習や古画の記録、保存以外にも、当時流行していた考証学的学問態度(諸事の根拠を明示して論証する学問態度)の中で、ビジュアル情報として活用されていたことが明らかになった。このことによって、近世における豊かなビジュアルカルチャーの一端を知ることができた。

研究成果の概要(英文)：In this research, in order to clarify the ideal way of making picture in the early modern period, we paid attention to Matsura Seizan, Shinzosyomoku. The following three points have been clarified in this research. The first point that Sumiyoshi School in the late Edo period had many copies of old masterpieces, and they had a good reputation for painting appraisal. The second point is that the copy of the old masterpieces were widely used not only in the picture production, but also in the salon of scholars who were centered on Matsudaira Sadanobu as a visual information of historical archeology. The third point is that copies of old masterpieces were frequently borrowed and shared between courtiers and shogunate painters.

研究分野：日本絵画史

キーワード：住吉派 近世やまと絵 御用絵師 模写 絵画鑑定

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

古画の模写は絵画史研究の重要な検討課題である。狩野探幽の古画学習を裏付けた「探幽縮図」の存在は狩野派研究を大きく進展させた。従来、模写の目的は絵画の図様と技法を学ぶため、あるいは原本の記録や保存のためとみなされてきたが、近年では、模写をより多角的に捉える試みがなされている。

しかしながら、これまで注目されてきた模写の多くは簡単な端書きしか残らず、具体的な事例研究は未だ充分とは言えない。そこで注目したのが住吉派である。同派は後水尾院の勅命によって多くの古画を模写し、このことが同派設立の契機となったからである。また、住吉派では模写の蓄積をもとに、やまと絵鑑定を行っていたため、模写に関する関連資料が他流派よりも充実している。古画模写の体系的な研究に最適な資料が同派に継承されてきたと言える。これらは現在でも「住吉家鑑定控」や「住吉家粉本類」、松浦静山著『新增書目』の記事等から確認することができる。以上のことより、住吉派の模写関連資料を狩野派や板谷派と比較することで、研究の遅れている近世御用絵師の絵画制作状況を具体的に解明したいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、住吉派の模写から見る近世御用絵師における絵画制作状況の具体的解明である。研究期間内に明らかにすることとして、以下の3点を掲げた。

- (1) 『新增書目』等で確認できる住吉派の模写の記録と現存する模写とを照合し、模写の目的、作品選択とその理由、依頼主の有無(誰なのか)を明らかにする。
- (2) 住吉派における模写の活用を、絵画制作における引用や編集、古画の記録や保存、その他の観点より明らかにする。
- (3) 狩野派・板谷派の模写と比較し、絵画制作の在り方や御用絵師内での棲み分けを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究の目的達成のため、以下の方法を掲げた。

- (1) 住吉派の模写に関する記録の抽出(『住吉家旧記』『新增書目』『甲子夜話』『増補考古画譜』)等
- (2) 現存する住吉派の模写や関連する本画の確認
- (3) 模写に関する記録と現存する模写や関連する本画との照合作業
- (4) データベース作成による住吉派の模写の体系化
- (5) 同じく幕府の御用絵師である狩野派・板谷派との模写の在り方の比較
- (6) 研究成果公開(情報交換会・研究会・報告書作成・HPでの公開)

4. 研究成果

本研究における研究成果は以下の6点である。

- (1) 松浦静山著『新增書目』に記載された住吉派や板谷派の模写に関する記事を抽出し、模写の目的が、当時流行していた考証学的学問態度を反映していたこと、依頼主が同書の著者である松浦静山であること、模写の所蔵者(住吉派の模写に限定せず)として、絵師(住吉広行・広尚、板谷桂意広長等)のみならず、松平定信を取り巻く知的ネットワーク(松平定信・松平信明・阿部正精・屋代弘賢・林述斎等)であることを確認した。(2018年11月12日の研究会で報告)
- (2) 『新增書目』に記載された模写と現存する模写(松浦史料博物館蔵...「相撲之繪」「病草紙」「異疾図」「畫師草紙」「氣違草紙」「木筆三十六歌仙」「狐の草子」「犬追物屏風

図」等、東京国立博物館蔵板谷家資料...「唐鞍飾馬図」等)を照合し、具体的な模写の在り方を文字と画像から確認した。

- (3) 『新增書目』に記載された住吉派の鑑定に関する記事と「住吉家鑑定控」(東京藝術大学大学美術館)とを比較し、「不動明王像」2点、「文殊菩薩像」、「如来荒神像」、「五字文殊菩薩像」、「木筆三十六歌仙」、「鳥羽僧正戯画」、「吒枳尼天神像」、「立像不動尊同二童子像」が照合することを確認した。
- (4) 『新增書目』に記載された住吉派・板谷派に関する模写、鑑定の記事は、住吉派や板谷派の模写や鑑定のみならず、江戸時代後期の考証学的学問態度や松平定信を中心とした知的ネットワークが具体的に把握できるため、下原が翻刻し、『新增書目』翻印-住吉派・板谷派の絵画鑑定及び模写に関する記事を中心に-(鹿児島大学教育学部研究紀要 第70巻 2019年3月)に掲載した。
- (5) 本研究では、住吉派や板谷派に関する作品及び資料調査を松浦史料博物館(平戸市)、護国院(東京都台東区)、廬山寺(京都市上京区)、寛永寺(東京都台東区)、多磨霊園(府中市)、祐天寺(東京都目黒区)等で行なった。これらの調査では、研究分担者である山下の他に、近世絵画史の研究者と共同で行うことが多く、撮影画像を含む入手したデータは研究者間で共有することにした。また、護国院では、これまで未公開であった住吉家の過去帳を、住吉如慶・具慶の墓が残る廬山寺では、同家の未公開の位牌を調査させていただいた。これらは所蔵者の許可を得て、『住吉派研究』(下原美保 藝華書院 2017年3月)で紹介した。
- (6) 本研究の社会還元として、下原が住吉大社(大阪市)にて講演会「住吉派の絵師 如慶と具慶について」(2017年9月11日)を、山下が「オークラコレクション」展(九州国立博物館 2018年10月2日~12月9日)にて住吉派の作品展示及び講演会「大倉集古館の近世日本絵画-狩野派、琳派など魅力の作品群をめぐって-」を行なった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

下原 美保、『新增書目』翻印-住吉派・板谷派の絵画鑑定及び模写に関する記事を中心に-、鹿児島大学教育学部研究紀要人文・社会科学編、査読無、70巻、2019年、13-40

山下 善也、狩野山雪と「和」の画題-「武家相撲絵巻」をめぐって-、美術研究、査読有、423号、2018年、67-94

下原 美保、箱崎における宮廷文化の伝播について-「箱崎八幡宮縁起」を例に、アジア遊学、査読無、224巻、2018年、112-116

山下 善也、大倉集古館の近世日本絵画、査読無、2018年、10-16

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計1件)

下原 美保、藝華書院、住吉派研究、2017年、381

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：山下 善也

ローマ字氏名：YAMASHITA, yoshiya

所属研究機関名：独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館

部局名：学芸部文化財課

職名：主任研究員

研究者番号（8桁）：40463252

(2)研究協力者

研究協力者氏名：久家孝史

ローマ字氏名：KUGA, takashi

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。